

焼津市内の特定外来生物「オオキンケイギク」について

(令和7年度焼津市内特定外来生物オオキンケイギク防除・意識啓発推進事業業務 簡易報告書概要版)

焼津市内では近年、特定外来生物オオキンケイギクが増えて目立つようになってきました。オオキンケイギクは、花がきれいですが、在来の野草の生育場所を奪うため、全国的に駆除されている植物です。

【特徴】

5~7月に、直径5~7cmの黄色~オレンジ色の花を咲かせます。花びらの先にはきざみがあります。



葉は細長いへら状で、生長が進むにつれて3~5枚の小葉に分かれます。粗い毛があります。高さは30~70cmで、冬は越冬します。

一つの花で100個ほどの種をつけ、その下には1m²当たりで3,000~5,000個の種があるといわれています。種の寿命は2~13年ある上に、根が残っていると容易に再生します。



越冬個体



燒津市内の密集生育箇所 (ほぼ全てオオキンケイギク)

【主な分布位置】

令和7年度に、焼津市内の主な群生地2か所で、分布調査を実施しました。



オオキンケイギク開花状況 (近くの地域)

オオキンケイギクを見つけた場合は、防除にご協力ください。

【防除方法】

防除方法には、根からの抜き取り（人力での抜根）、地上部の刈り取り（機械刈り）、除草剤の使用などがありますが、焼津市の生育箇所には、キキョウなど他の植物の生育に影響を及ぼさないために、抜き取りと刈り取りが適していると思われます。

・抜き取り

オオキンケイギクは多年草で、根が残っていると再生するため、根こそぎ抜き取る必要があります。地面が固い場合は、スコップや移植ごてを使用します。埋土種子からの発芽があるため、抜き取りの効果を得るには3~4年継続することが必要です。自治会活動等で小規模に行う場合には日時、範囲、体制や運搬方法などを計画し、事前に回覧版や掲示板等で公表する必要があります。

・刈り取り

高密度で広範囲に生育している箇所は、刈払機などで地上部を刈り取る方法があります。この場合、翌年には残った根から再生しますので、年に複数回（2月、5月、10月）かつ複数年の継続が必要です。

どちらにしても、作業に使用した道具や長靴などには種子が付いていますので、作業後はよく洗う必要があります。

【運搬方法】

オオキンケイギクは特定外来生物のため、生きたままの運搬が原則禁止されています。そのため、種子や根を落とさないように袋に密閉し、その場で数日間天日にさらして枯死させてから、可燃ごみとして廃棄します。自治会活動等の小規模な防除の場合は、生きたまま運ぶことや、一時保管することは問題ありませんが、シートで覆うなど、こぼれ落ちないよう対策して、清掃工場に直接持ち込みます。

【防除時期】

種子をつけた後に除去作業を行うと、かえって種子を周囲にばらまいてしまうので、花やつぼみで分かりやすく、また種子をつける前の4~5月頃が適しています。多くの植物が枯れる冬季は、ロゼット状の越冬個体の判別ができれば効率的な除去が可能です。

オオキンケイギクの生活史・防除適期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
越冬	←	→										←→
生長			←	→								
花期				←	→							
結実					←	→						
防除	←	→	適期	←→						←→		
	越冬個体が判別できれば可能								越冬個体が判別できれば可能			



防除図解（環境省チラシ『特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除にご協力下さい！』より）



結実状況（焼津市内）